

『リベラルアーツ学群専攻プログラム履修モデル集』について

リベラルアーツ学群では、2年次春学期から、専門科目の履修が本格的に始まります。この冊子は、みなさんが専門科目の履修を行っていくためのガイドとして編集したものです。

この冊子は、各専攻プログラムの「履修の手引き」と「履修モデル」から構成されています。

●履修の手引き

- ・「履修の手引き」には、各専攻プログラムから履修のしかたについてのメッセージが載せられています。ある程度自分の志望する専攻プログラムが絞れている人は、それらのメッセージを参考にして履修を行って下さい。
- ・とくに、専攻プログラムのカリキュラム構成が「積み上げ型」か「自由履修型」かで、1・2年次の望ましい履修のあり方が違ってきますので、その点を注意するようにして下さい。

●履修モデル

- ・「履修モデル」とは、各専攻プログラムの科目をどのように履修していったらよいかを、例として示したものです。各専攻プログラムを修了するためには32～36単位の科目を修得することが必要ですが、どの専攻プログラムも、それをほかに上回る数の科目を準備しており、みなさんが、その専門分野の中でさらにテーマを絞った履修ができるようになっています。「履修モデル」とは、そうしたモデル・カリキュラムの例を示したものです。
- ・各専攻プログラムの「履修モデル」ページには、その専攻プログラムの全科目をカテゴリーとレベルに応じて分類表示したマトリックスを記載しています。その中で「◎」のついている科目はメジャーの必修科目（教職モデルの場合は、教科に関する科目の必修科目）です。また、「○」のついている科目は、その履修モデルに該当する推奨科目です。
- ・また、「その他の推奨科目」には、その専攻プログラム科目以外のお勧めの科目を記載してあります。
- ・リベラルアーツ学群には、33の専攻プログラム、およびマイナープログラムがありますが、この冊子には、各専攻プログラムから提示された「履修モデル」が掲載されています。自分の関心ある専攻プログラムの「履修モデル」をよく読んで、科目履修の参考にして下さい。

この『履修モデル集』は、みなさんが自分の学習計画を立てる際の目安として作成したものであり、このように履修することを義務付けているわけではまったくありません。むしろ私たちは、みなさんが、Independent Learnerとして、自分の関心と視点に立って、独自の「履修モデル」を作成することを期待しています。

リベラルアーツ学群の科目編成はきわめて自由であり、内容を絞る、いろいろな分野を組み合わせる、その専門分野のさわりを学ぶ、など、さまざまな組み立て方が可能です。ぜひみなさんも、独自のテーマ性をもって自分の学習に取り組んでいって下さい。そして、「履修モデル」を通じたリベラルアーツ学群ならではの新しい学びの世界を、ともに切り開いて行きましょう。

コミュニケーション学専攻プログラム

履修のしかた

本専攻プログラムは、コミュニケーションの基礎概念を学んでから、徐々に専門科目へと進んでいく積み上げ型のプログラムです。

- ・1年次に履修しておいたほうがよい科目：

コミュニケーション科目は、開講されている年次順に必修科目から履修を始めて下さい。1年次には「現代コミュニケーション理論」「集団コミュニケーション」「オーラルコミュニケーション（きく）」、また実践力をつけるために「オーラルコミュニケーション（話す）」「口語表現発展演習（口語表現II）」が用意されています。

- ・2年次で履修しておいたほうがよい科目：

「対人コミュニケーション」「異文化コミュニケーション」「国際コミュニケーション」「コミュニケーション学特論（きくことの科学）」「談話分析」などの理論の科目のほか、ゼミ論、卒論を書くための「コミュニケーション調査研究」の履修もおすすめです。

他の専攻プログラムとの関係

学んだ知識や内容を明確に表現できるコミュニケーション能力はどの分野を専攻するにも必要な能力であり、コミュニケーション学は、多くの分野と強くかかわり合っています。心理学、社会学、言語学、政治学、経済学、情報科学など、どれをとってもコミュニケーションと無縁の分野はありません。どの専攻プログラムに進む人にも等しく役立つプログラムです。コミュニケーション学でダブルメジャーを目指す、あるいは、自分の専攻プログラムのマイナーにするのもよいでしょう。

留学・教職その他

コミュニケーション学を学びたい人には、留学はおすすめです。文化的背景の異なる人とのコミュニケーションを通し、多くのことを体験し、学ぶことで自分自身がさらに成長することができます。在学中に、短期、長期のプログラムに参加して、ぜひ、自分で積極的に世界の人々とコミュニケーションをはかり、異文化コミュニケーション能力を伸ばしてください。「議論とディベート」「ミディエーション」などの実践のクラスもコミュニケーション能力を伸ばすのに役立ちます。

将来、教員を目指す人にも、コミュニケーション能力は必須ですから、必ず、複数科目、とくに、基礎科目の口語表現発展演習（口語表現II）を取ることをおすすめします。そこで、さまざまな教育方法を実体験してみてください。

学生へのメッセージ

コミュニケーション学の楽しさは、学んだことがすぐ実生活に生かせることです。学びを通して学生自らが自分のコミュニケーション行動の改善点に気づき、実践することで、更に改善を重ね、自分次第でクラスメートと一緒に成長していけるプログラムです。自ら積極的に授業に参加し、自分を向上させたいと願う意欲のある学生の履修を望みます。

コミュニケーション学専攻プログラム

1 異文化・国際コミュニケーション履修モデル

国際的な視野に立って物事を捉え、文化背景の異なる人々とより良い人間関係を築くことのできるコミュニケーション能力を身につけ、将来国際的な環境のもとで仕事をしたいと考えている学生向けのプログラム。

コミュニケーション学専攻プログラム科目

level カテゴリ	1000				2000				3000				4000			
	推奨	科目コード	科目名	単位	推奨	科目コード	科目名	単位	推奨	科目コード	科目名	単位	推奨	科目コード	科目名	単位
コミュニケーション理論	◎	COM1000L	現代コミュニケーション理論	4	○	COM2130L	組織コミュニケーション	4	○	COM3160L	コミュニケーション学特論(非言語)	4				
	◎	COM1130L	集団コミュニケーション	2	○	COM2120L	対人コミュニケーション	4	○	COM3140L	言語とジェンダー	4				
					○	COM2140L	異文化コミュニケーション	4	○	COM3143L	異文化理解教育	4				
					○	COM2050L	コミュニケーション学特論(きくことの科学)	4	○	COM3210L	コミュニケーション調査研究	4				
					○	COM2143L	国際コミュニケーション	4								
					○	COM2170L	メディアコミュニケーション	2								
実践・演習	○	COM1004L	オーラルコミュニケーション(きく)	2		COM2150L	話し言葉の技法	2	○	COM3450L	議論とディベート	2				
	○	COM1003L	オーラルコミュニケーション(話す)	2		IST2470L	プレゼンテーション演習	2	○	COM3030L	ミディエーション	2				
言語・ソークレト						LIN2440L	日本語の音声	2		LIN3350L	レトリックの歴史	2				
						LIN2430L	談話分析	4		COM3150L	現代レトリック論	4				
										LIN3410L	プラグマティクス	4				
心理学・社会		SOC1000L	社会学概論	4		PSY2141L	社会・集団心理学	2								

その他の推奨科目 ※〔 〕内は単位数

- ・口語表現発展演習(口語表現II)[2]
- ・国際関係論[4]
- ・言語と文化[4]
- ・Intercultural Communication[4]
- ・国際協力フィールドワーク[1~4]
- ・専攻演習I&II[各2]

コミュニケーション学専攻プログラム

2 集団・組織コミュニケーション履修モデル

組織におけるリーダーシップをとるために必要な小集団におけるファシリテーション能力育成の必須となる理論を学び、交渉や問題解決のためのコミュニケーション能力を養成する。

コミュニケーション学専攻プログラム科目

level カテゴリ	1000				2000				3000				4000			
	推奨	科目コード	科目名	単位	推奨	科目コード	科目名	単位	推奨	科目コード	科目名	単位	推奨	科目コード	科目名	単位
コミュニケーション理論	◎	COM1000L	現代コミュニケーション理論	4	○	COM2130L	組織コミュニケーション	4		COM3160L	コミュニケーション学特論(非言語)	4				
	◎	COM1130L	集団コミュニケーション	2	○	COM2120L	対人コミュニケーション	4	○	COM3140L	言語とジェンダー	4				
					○	COM2140L	異文化コミュニケーション	4		COM3143L	異文化理解教育	4				
						COM2050L	コミュニケーション学特論(きくことの科学)	4	○	COM3210L	コミュニケーション調査研究	4				
					○	COM2143L	国際コミュニケーション	4								
実践・演習					○	COM2170L	メディアコミュニケーション	2								
	○	COM1004L	オーラルコミュニケーション(きく)	2		COM2150L	話し言葉の技法	2	○	COM3450L	議論とディベート	2				
	○	COM1003L	オーラルコミュニケーション(話す)	2	○	IST2470L	プレゼンテーション演習	2	○	COM3030L	ミディエーション	2				
言語スキル						LIN2440L	日本語の音声	2		LIN3350L	レトリックの歴史	2				
						LIN2430L	談話分析	4		COM3150L	現代レトリック論	4				
										LIN3410L	フラグマティクス	4				
心理学・社会学		SOC1000L	社会学概論	4	○	PSY2141L	社会・集団心理学	2								

その他の推奨科目 ※[]内は単位数

- ・口語表現発展演習(口語表現II)[2]
- ・産業組織論[4]
- ・専攻演習I&II[各2]

コミュニケーション学専攻プログラム

3 スピーチ・コミュニケーション履修モデル

本コースでは、修辞学(レトリック)と言語学の基礎を理解した上で、現代社会に生かせる効果的なパブリック・スピーチを行う実践力を養う。

コミュニケーション学専攻プログラム科目

level カテゴリ	1000				2000				3000				4000			
	推奨	科目コード	科目名	単位	推奨	科目コード	科目名	単位	推奨	科目コード	科目名	単位	推奨	科目コード	科目名	単位
コミュニケーション理論	◎	COM1000L	現代コミュニケーション理論	4	○	COM2130L	組織コミュニケーション	4	○	COM3160L	コミュニケーション学特論(非言語)	4				
	◎	COM1130L	集団コミュニケーション	2	○	COM2120L	対人コミュニケーション	4		COM3140L	言語とジェンダー	4				
					○	COM2140L	異文化コミュニケーション	4		COM3143L	異文化理解教育	4				
					○	COM2050L	コミュニケーション学特論(きくことの科学)	4		COM3210L	コミュニケーション調査研究	4				
					○	COM2143L	国際コミュニケーション	4								
実践・演習					○	COM2170L	メディアコミュニケーション	2								
	○	COM1004L	オーラルコミュニケーション(きく)	2	○	COM2150L	話し言葉の技法	2	○	COM3450L	議論とディベート	2				
	○	COM1003L	オーラルコミュニケーション(話す)	2	○	IST2470L	プレゼンテーション演習	2	○	COM3030L	メディアエーション	2				
言語ツクト					○	LIN2440L	日本語の音声	2	○	LIN3350L	レトリックの歴史	2				
						LIN2430L	談話分析	4	○	COM3150L	現代レトリック論	4				
										LIN3410L	フラグマティクス	4				
心理学・社会		SOC1000L	社会学概論	4												
						PSY2141L	社会・集団心理学	2								

その他の推奨科目 ※〔 〕内は単位数

- ・口語表現発展演習(口語表現II)[2]
- ・専攻演習I&II[各2]

『リベラルアーツ学群専攻プログラム履修モデル集』について

リベラルアーツ学群では、2年次春学期から、専門科目の履修が本格的に始まります。この冊子は、みなさんが専門科目の履修を行っていくためのガイドとして編集したものです。

この冊子は、各専攻プログラムの「履修の手引き」と「履修モデル」から構成されています。

●履修の手引き

- ・「履修の手引き」には、各専攻プログラムから履修のしかたについてのメッセージが載せられています。ある程度自分の志望する専攻プログラムが絞れている人は、それらのメッセージを参考にして履修を行って下さい。
- ・とくに、専攻プログラムのカリキュラム構成が「積み上げ型」か「自由履修型」かで、1・2年次の望ましい履修のあり方が違ってきますので、その点を注意するようにして下さい。

●履修モデル

- ・「履修モデル」とは、各専攻プログラムの科目をどのように履修していったらよいかを、例として示したものです。各専攻プログラムを修了するためには32～36単位の科目を修得することが必要ですが、どの専攻プログラムも、それをほかに上回る数の科目を準備しており、みなさんが、その専門分野の中でさらにテーマを絞った履修ができるようになっています。「履修モデル」とは、そうしたモデル・カリキュラムの例を示したものです。
- ・各専攻プログラムの「履修モデル」ページには、その専攻プログラムの全科目をカテゴリーとレベルに応じて分類表示したマトリックスを記載しています。その中で「◎」のついている科目はメジャーの必修科目（教職モデルの場合は、教科に関する科目の必修科目）です。また、「○」のついている科目は、その履修モデルに該当する推奨科目です。
- ・また、「その他の推奨科目」には、その専攻プログラム科目以外のお勧めの科目を記載してあります。
- ・リベラルアーツ学群には、33の専攻プログラム、およびマイナープログラムがありますが、この冊子には、各専攻プログラムから提示された「履修モデル」が掲載されています。自分の関心ある専攻プログラムの「履修モデル」をよく読んで、科目履修の参考にして下さい。

この『履修モデル集』は、みなさんが自分の学習計画を立てる際の目安として作成したものであり、このように履修することを義務付けているわけではまったくありません。むしろ私たちは、みなさんが、Independent Learnerとして、自分の関心と視点に立って、独自の「履修モデル」を作成することを期待しています。

リベラルアーツ学群の科目編成はきわめて自由であり、内容を絞る、いろいろな分野を組み合わせる、その専門分野のさわりを学ぶ、など、さまざまな組み立て方が可能です。ぜひみなさんも、独自のテーマ性をもって自分の学習に取り組んでいって下さい。そして、「履修モデル」を通じたリベラルアーツ学群ならではの新しい学びの世界を、ともに切り開いて行きましょう。

コミュニケーション学専攻プログラム

履修のしかた

コミュニケーション学は、コミュニケーションの基礎概念を学んでから、少しずつ専門科目へと学んでいく積み上げ型のプログラムです。

- ・1年次に履修しておいたほうが良い科目：

コミュニケーション科目は、開講されている年次順に必修科目から履修を始めて下さい。1年次には「現代コミュニケーション理論」「集団コミュニケーション」「オーラルコミュニケーション（きく）」、また実践力をつけるために「オーラルコミュニケーション（話す）」もお勧めです。

- ・2年次で履修しておいたほうが良い科目：

「対人コミュニケーション」「異文化コミュニケーション」「国際コミュニケーション」「コミュニケーション学特論（きくことの科学）」「談話分析」などの理論の科目のほかに、ゼミ論、卒論を書くための「コミュニケーション調査研究」の科目の履修もお勧めです。

他の専攻プログラムとの関係

学んだ知識や内容を明確に表現できるコミュニケーション能力はどの分野を専攻するにも必要な能力であり、コミュニケーション学は、多くの分野と強くかかわり合っています。心理学、社会学、言語学、政治学、経済学、情報など、どれをとってもコミュニケーションと無縁の分野はありません。どの専攻プログラムに進む人にも等しく役立つプログラムです。ダブルメジャーを目指す、あるいは、自分の専攻プログラムのマイナーにするのも良いでしょう。

留学・教職その他

コミュニケーション学を学びたい人には、留学はお勧めです。日本人だけではなく、文化背景の異なる人とのコミュニケーションを通し、多くのことを体験し、学ぶことで自分自身がさらに成長することができます。在学中に、短期、長期のプログラムを使ってぜひ、自分で積極的に世界の人々とコミュニケーションをはかり、異文化コミュニケーション能力を伸ばしてください。「議論とディベート」「メディアーション」などの実践のクラスもコミュニケーション能力を伸ばすのに役立ちます。

将来、教員を目指す人にも、コミュニケーション能力がますます求められる時代になってきました。教職の授業にも、たくさんのコミュニケーション科目が取り入れられていますので履修してください。

学生へのメッセージ

コミュニケーション学の楽しさは、学んだことがすぐ実生活に生かせることです。学びを通して学生自らが自分のコミュニケーション行動の改善点に気づき、実践することで、更に改善を重ね、自分次第でクラスメートと一緒に成長していけるプログラムです。自ら積極的に授業に参加し、自分を向上させたいと願う意欲のある学生の履修を望みます。

コミュニケーション学専攻プログラム

1 国際・異文化コミュニケーション履修モデル

国際的な視野に立って物事を捉え、文化背景の異なる人々とより良い人間関係を築くことのできるコミュニケーション能力を身につけ、将来国際的な環境のもとで仕事をしたいと考えている学生向けのプログラム。

コミュニケーション学専攻プログラム科目

level カテゴリ	1000				2000				3000				4000			
	推奨	科目コード	科目名	単位	推奨	科目コード	科目名	単位	推奨	科目コード	科目名	単位	推奨	科目コード	科目名	単位
コミュニケーション理論	◎	COM1000L	現代コミュニケーション理論	4	○	COM2130L	組織コミュニケーション	4		COM3160L	コミュニケーション学特論(非言語)	4				
	○	COM1130L	集団コミュニケーション	2	○	COM2120L	対人コミュニケーション	4		COM3140L	言語とジェンダー	4				
					○	COM2140L	異文化コミュニケーション	4	○	COM3143L	異文化理解教育	4				
					○	COM2050L	コミュニケーション学特論(きくことの科学)	4	○	COM3210L	コミュニケーション調査研究	4				
					○	COM2143L	国際コミュニケーション	4								
						COM2170L	メディアコミュニケーション	2								
実践・演習	○	COM1004L	オーラルコミュニケーション(きく)	2		COM2150L	話し言葉の技法	2	○	COM3450L	議論とディベート	2				
	○	COM1003L	オーラルコミュニケーション(話す)	2		IST2470L	プレゼンテーション演習	2	○	COM3030L	メディアーション	2				
言語・リット						LIN2440L	日本語の音声	2	○	LIN3350L	レトリックの歴史	2				
					○	LIN2430L	談話分析	4	○	COM3150L	現代レトリック論	4				
										LIN3410L	ブラグマティクス	4				
心理・社会学		SOC1000L	社会学概論	4		PSY2140L	社会心理学	4								

その他の推奨科目 ※〔〕内は単位数

- ・口語表現II〔2〕
- ・国際関係論〔4〕
- ・言語と文化〔4〕
- ・Intercultural Communication〔4〕
- ・国際協力フィールドワーク〔1～4〕
- ・専攻演習I&II〔各2〕

コミュニケーション学専攻プログラム

2 組織・集団コミュニケーション履修モデル

小集団における効果的なコミュニケーションのとり方や、組織におけるリーダーシップ、及び交渉や問題解決のためのコミュニケーション能力を養成するプログラム。

コミュニケーション学専攻プログラム科目

level カテゴリ	1000				2000				3000				4000			
	推奨	科目コード	科目名	単位	推奨	科目コード	科目名	単位	推奨	科目コード	科目名	単位	推奨	科目コード	科目名	単位
コミュニケーション理論	◎	COM1000L	現代コミュニケーション理論	4	○	COM2130L	組織コミュニケーション	4		COM3160L	コミュニケーション学特論(非言語)	4				
	○	COM1130L	集団コミュニケーション	2	○	COM2120L	対人コミュニケーション	4		COM3140L	言語とジェンダー	4				
					○	COM2140L	異文化コミュニケーション	4	○	COM3143L	異文化理解教育	4				
					○	COM2050L	コミュニケーション学特論(きくことの科学)	4	○	COM3210L	コミュニケーション調査研究	4				
					○	COM2143L	国際コミュニケーション	4								
						COM2170L	メディアコミュニケーション	2								
実践・演習	○	GOM1004L	オーラルコミュニケーション(きく)	2		GOM2150L	話し言葉の技法	2	○	COM3450L	議論とディベート	2				
	○	COM1003L	オーラルコミュニケーション(話す)	2	○	IST2470L	プレゼンテーション演習	2	○	COM3030L	ミディエーション	2				
言語・レトリック						LIN2440L	日本語の音声	2	○	LIN3350L	レトリックの歴史	2				
						LIN2430L	談話分析	4		COM3150L	現代レトリック論	4				
										LIN3410L	プラグマティクス	4				
心理・社会学		SOC1000L	社会学概論	4		PSY2140L	社会心理学	4								

その他の推奨科目

※[]内は単位数

- ・口語表現II[2]
- ・産業組織論[4]
- ・人間関係論[4]
- ・専攻演習I&II[各2]

コミュニケーション学専攻プログラム

3 スピーチ・コミュニケーション履修モデル

人前で話すことに対する苦手意識を克服することにより実践コミュニケーション能力を高め、学生生活だけではなく社会人としても求められる総合的なコミュニケーション能力を養うことを目的としたプログラム。

コミュニケーション学専攻プログラム科目

level カテゴリ	1000				2000				3000				4000			
	推奨	科目コード	科目名	単位	推奨	科目コード	科目名	単位	推奨	科目コード	科目名	単位	推奨	科目コード	科目名	単位
コミュニケーション理論	◎	COM1000L	現代コミュニケーション理論	4	○	COM2130L	組織コミュニケーション	4		COM3160L	コミュニケーション学特論(非言語)	4				
	○	COM1130L	集団コミュニケーション	2	○	COM2120L	対人コミュニケーション	4		COM3140L	言語とジェンダー	4				
					○	COM2140L	異文化コミュニケーション	4		COM3143L	異文化理解教育	4				
					○	COM2050L	コミュニケーション学特論(きくことの科学)	4		COM3210L	コミュニケーション調査研究	4				
					○	COM2143L	国際コミュニケーション	4								
						COM2170L	メディアコミュニケーション	2								
実践・演習	○	COM1004L	オールラウンドコミュニケーション(きく)	2	○	COM2150L	話し言葉の技法	2	○	COM3450L	議論とディベート	2				
	○	COM1003L	オールラウンドコミュニケーション(話す)	2	○	IST2470L	プレゼンテーション演習	2	○	COM3030L	ミディエーション	2				
言語・レトリック					○	LIN2440L	日本語の音声	2	○	LIN3350L	レトリックの歴史	2				
						LIN2430L	談話分析	4		COM3150L	現代レトリック論	4				
										LIN3410L	プラグマティクス	4				
心理・社会学		SOC1000L	社会学概論	4		PSY2140L	社会心理学	4								

その他の推奨科目

※[]内は単位数

- ・口語表現II[2]
- ・専攻演習I&II[各2]